

# 長畝ふるさと通信

【2013年5月号】

## ■ 田植えは5月6日から20日まで毎日！

5月6日から田植えが始まりました。金北山にはまだ残雪があり、普段の年に比べると相当寒かったです。4月も比較的低温で推移したため、苗の生育が心配されましたが何とか間に合いました。25年産の作付はコシヒカリが約50ha、こしいぶきが加工米も含めて27ha、こがねもちが5haといったところです。



早朝7時から始まり、陽が傾く夕方6時までとにかく「田植え三昧」の毎日が2週間続きました。時にはピーカン天気で顔は日焼けで真っ赤っか、時には冷たい雨に打たれ体を震わせながら…。家へ帰って晩酌が済む8時半頃にはコタツでウトウト…。昔ジャイアンツにいた宮田投手のように「8時半の男」と家族から呼ばれる始末です。



左の田植機はヤンマーの新型で「7条植え」のディーゼルエンジン搭載型です。メーカーのデモ機で試乗しましたが（実際田植えをさせてもらったのですが…）、「やっぱりヤンマーがええなあ」の昔のCMどおり、安定性・馬力・苗の植え付けどれをとっても言うことナシです。お値段はかなり張りますが正直欲しくなりました。

今年も田んぼのまわりには生きものたちがいっぱいです。朝ウグイスの声で目が覚め、夜はカエルたちの大合唱を聞きながら晩酌で1日の疲れを取る…田舎ならではの暮らし方です。



## ■ 田植えの次は・・・休むヒマ也没有せん！

田植えが終わると間髪入れず、大豆の播種と畦草刈りが待っています。大豆の栽培面積は約10ha、5月中旬から下旬にかけて生産調整で転作する田んぼに種を播きます。トラクターの後方に取り付けられた播種機はこれ1台で畝立て・種まき・肥料散布の3役をこなす優れものです。



- ①ロータリーが土を耕し、畝立てをします
- ②このタンクに肥料が入っていて、パイプを通して土の中に播いていきます。
- ③大豆を鳥に食べられないようコーティングして、等間隔に1粒ずつ播いていきます。30aの田んぼを播種するのに要する時間は約2時間。人間の歩く速度より遅いトラクターの運転も楽ではありません。まわりの景色は変わりませんからドライブ気分もありません。

5月中旬から一気に気温が上昇し、田んぼの畦草たちが一気に暴れ出しました。草丈は腰の高さまであり、草刈り機で刈り倒すのも容易ではありません。放っておくとどんどんやっかいになるので組合員のみなさん方にも協力してもらって何とか対応してはいますが、雑草の生長に追いついていません。これから毎日畦草との格闘が始まります。



## ■ 放鳥トキにも野生の試練が次々と・・・

昨年に続き今年も野生下のトキからヒナが巣立ちました。5月28日現在で2羽の巣立ちが確認



され、あと3羽巣立ちを待っているとのこと。最近では巣立ち前のヒナがカラスに襲われ、骨はタヌキが食べていたとか、繁殖中のペアの3才雄がトビに襲われお腹に穴が空いて死んでいたなどと報道されています。野生の世界では珍しいことではありませんが、試練ですねえ。左の写真はモリアオガエルの卵で、中には沢山の生まれたてのオタマジャクシが見えます。カエルになれるのは・・・自然は厳しい！